

論 説

営農指導全国大会

伝える技能を高めよう

J A全中主催の営農指導実践
 全国大会が、オンラインで初め
 て開かれた。活動と成果の発表
 は事前収録の動画を配信。発表
 内容だけではなく、動画の出来
 具合が視聴者の理解に影響する
 ことが改めて確認された。営農
 指導でオンラインや動画の活用
 が広がることも想定され、伝え
 る技能の向上が求められる。

5回目の今回、最優秀賞に輝
 いた山形県J Aおきたま営農経
 済部、柴田啓人さんの発表は
 特に素晴らしかった。活動と成
 果、構成が優れていたことに加
 え、カメラを前にした話しぶり
 や目線、スライドの内容、映像
 の明るさなど細部にまで心配り
 されていた。「地域のために」
 は全ての発表に共通する目的
 だ。加えて柴田さんの発表動画
 は「どうしたらよく伝わるか」を
 より意識したように感じた。

洗練された動画はなぜできた
 のか、発表内容から垣間見え
 る。日本一のブドウ「デラウェア
 ア」産地として統一規格の作成
 や集出荷の効率化、オリシナル
 商品の開発を展開。西洋梨やリ
 ンゴ、桃を合わせた4品目で販
 売価格を6〜26%高めた。こう
 した成果を上げ、自信を持って

収録に臨んだこともあろう。
 そのための苦労も多かった。
 集出荷施設の再編を巡って、2
 年間に100回行ったという説
 明会。地域のシンボルでもある
 選果場がなくなることに組合員
 から「クビをかけられるのか」
 と詰め寄られるなど、難しい合
 意形成を求められた。しかし丁
 寧な説明を続けたことで「産地
 を維持するための選択」との理
 解が広がり、成果につながった。
 審査講評ではいくつかの発表
 について音声の乱れが指摘され
 た。大きなホールでの発表に適
 した腹から出す声も、狭い部屋
 での収録では聞き取りにくい場
 合がある。発表者が体を動かし
 てマイクとの距離が少し変わる
 だけでも同様で、発表内容が視
 聴者の頭に入りにくくなる。

新型コロナウイルス下では、
 視察も含めて研修会や会議のオ
 ンライン開催、動画の利用など
 が進むだろう。コロナが収束し
 ても、離れたところからも参加
 できることや、動画での情報提
 供の分かりやすさ、利便性など
 から継続すると考えられる。

対面でもオンラインでも重要
 なのは情報の内容と理解を得る
 ことへの熱意だ。その上で受け
 取る側が分かるように心を配る
 ことが大切で、オンラインや動
 画では機器の使い方や撮影の仕
 方、話し方など新たな技能が必
 要になる。技術革新で映像や音
 声など情報量が増えるに従い、
 より高い技能も求められよう。

全国大会で発表した8人に
 は、副賞として金の営農指導員
 バッジが贈られた。通常は白、
 上位資格として導入された地域
 営農マネージャーは銀。各地の
 予選を勝ち抜いたこの8人は、
 それほど優れた活動で高い成果
 を上げたということである。発
 表動画はJ Aグループ公式ホー
 ムページで公開する予定だ。発
 表内容と動画の質の両方から経
 験を学びたい。